令和８年１１月６日
保　健　医　療　局

感染性胃腸炎にご注意ください！
～ノロウイルス等による集団感染が多く発生する時期です～

例年、冬の時期は、腹痛、下痢、嘔吐を主な症状とする「感染性胃腸炎」の集団感染が多数報告されています。集団感染が危惧される施設では、施設の衛生的管理などに注意し対策を行ってください。

また、感染予防のため、次のポイントにご注意願います。

対策のポイント

○ こまめな手洗い　　○ノロウイルスにはアルコールが効きにくいことに注意
○ 二枚貝の十分な加熱調理
○ 吐物やふん便の適切な処理（次亜塩素酸ナトリウムの使用など）

【参考】

〈感染性胃腸炎警報レベルについて〉

感染性胃腸炎の警報レベルの開始基準値は、20 人／定点（週）となっています。

また、警報レベル開始基準値を超えた保健所の管内人口の合計が、東京都の人口全体の30%を超えた場合には、広域的に流行が発生・継続しているとして警報を発します。

今シーズン*における都内小児科定点医療機関（264 か所）からの第 44 週（10 月 26 日から 11 月 1 日まで）の患者報告数は、3.68 人／定点（週）、保健所の管内人口の合計も 30%に達していないため、**現時点では、警報レベルには達していません。**

なお、感染性胃腸炎は注意報レベルの開始基準値はありません。

〈都内における感染性胃腸炎の集団感染事例の発生状況〉

昨シーズン*は、都内の保育施設や高齢者施設等から計 631 件の集団感染事例** が報告されました（保育所 414 件、高齢者施設 147 件、小学校 28 件、障害者施設 14 件、医療機関 17 件、幼稚園４件、高等学校１件、その他６件）。

今シーズンは 11 月 1 日までに 13 件の集団感染事例が報告されています（保育所 12 件、小学校１件）。

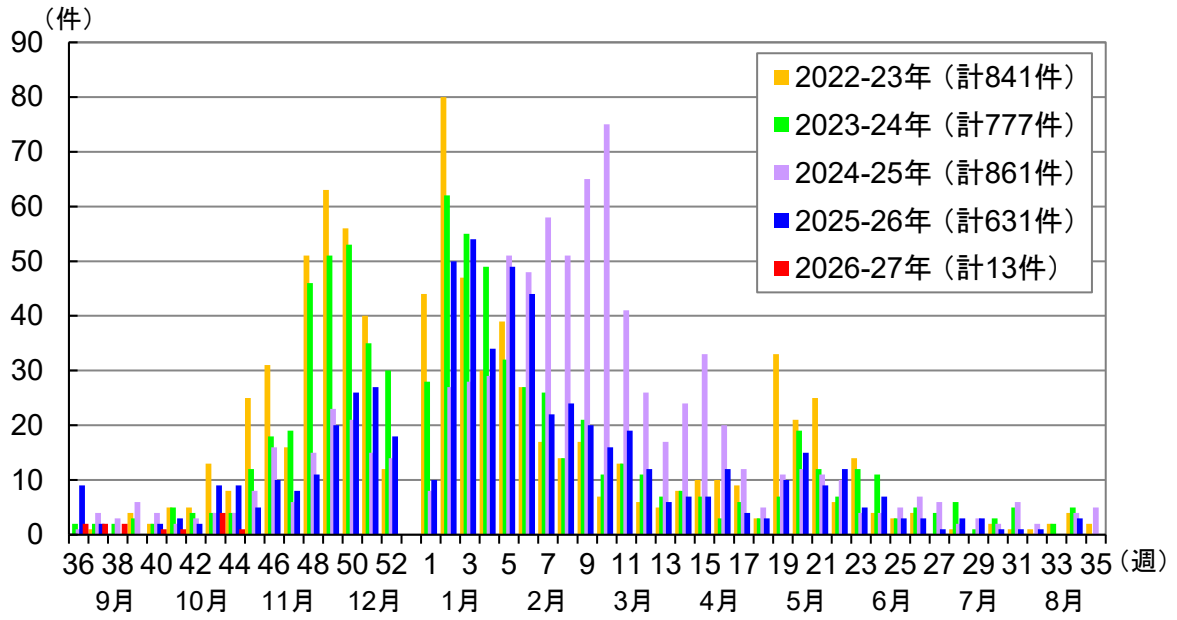
＊　シーズンとは、当該年の第 36 週（9 月）から、翌年の第 35 週（8 月）までの期間
＊＊　都内の保健所に報告があった事例のうち、同一施設で 10 人以上の患者が発生し、かつ、病原体の検出が確認された事例の件数（食中毒と判断された事例を除く）。

【問合せ先】
○　感染症に関する東京都の対応等、全般に関すること
東京都保健医療局感染症対策部防疫課　03-5320-4088

○　感染症患者の報告数（感染症発生動向に関すること）
東京都健康安全研究センター企画調整部健康危機管理情報課　03-3363-3213

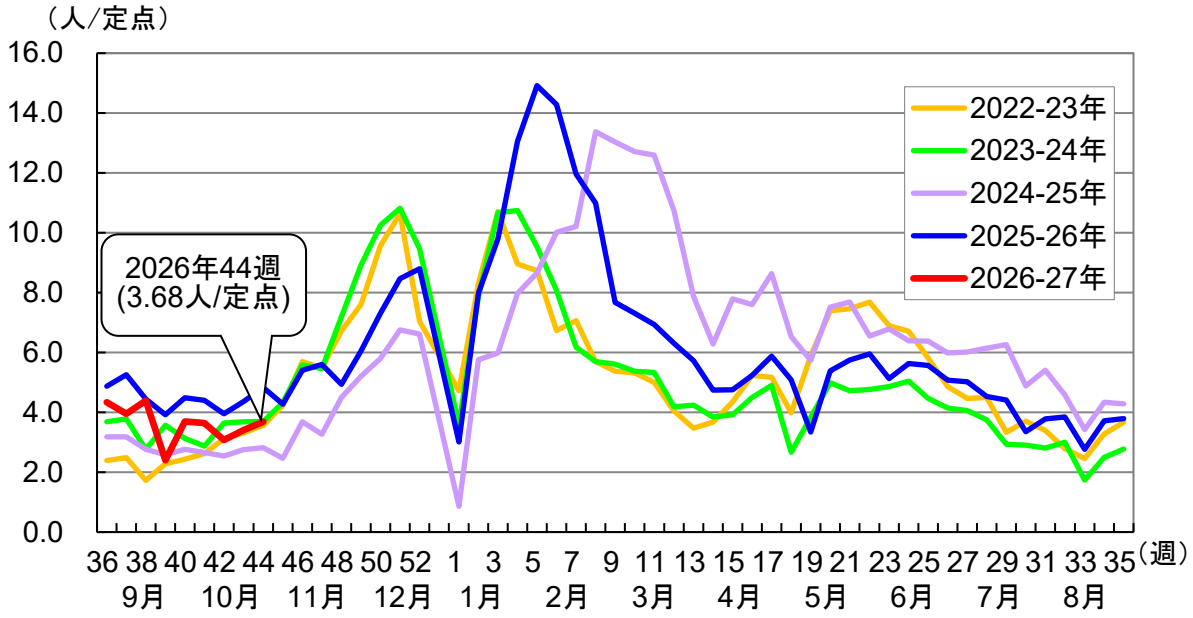
＜都内における感染性胃腸炎の集団感染事例報告件数＞

（令和８年（2026 年）第 44 週まで）



＜感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数推移　過去５シーズン＞

（定点医療機関からの報告による）



データ出典：東京都感染症発生動向調査（https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/）より

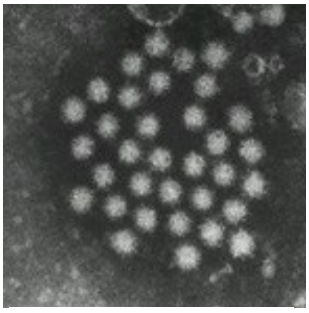
感染性胃腸炎について

1　感染性胃腸炎とは

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの病原体を原因とする胃腸炎の総称です。

原因となるウイルスには、「ノロウイルス」、「ロタウイルス」、「サポウイルス」、「アデノウイルス」などがあり、主な症状は腹痛・下痢、嘔吐、発熱です。

これらの胃腸炎は、症状のある期間が比較的短く、また、ウイルスの種類によって異なる治療が行われることも通常はないため、ウイルス検査を行うことなく、流行状況や症状から「感染性胃腸炎」として診断されることがあります。



写真：ノロウイルスの電子顕微鏡写真

2　原因と感染経路

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、人から人へ感染する場合と、汚染した食品を介しておこる食中毒に分けられ、次のような感染経路があります。

- ◆ 感染した人の便や吐物に触れた手指を介して、ノロウイルスが口に入った場合
- ◆ ノロウイルスを内臓に取り込んだカキやシジミなどの二枚貝を、生で又は不十分な加熱処理で食べた場合
- ◆ 感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合
- ◆ 感染した人の吐物やふん便が乾燥して、細かなちりと舞い上がり、そのちりと一緒にウイルスを取り込んだ（吸い込んだ）場合

3　感染予防のポイント

① 感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスはアルコール消毒の効果が乏しいため、まず一人ひとりが手洗いをきちんと行うことが大切です。特に排便後、調理や食事の前には、その都度、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

② カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう（中心温度 85～90℃で 90 秒間以上の加熱＊が必要です。）。

＊「大量調理施設衛生管理マニュアル」（厚生労働省）より

③ 吐物やふん便は、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤）を使用し、適切に処理しましょう。

④ 吐物やふん便を処理する際は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

4　感染性胃腸炎の治療

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎には特別な治療方法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診することが大切です。

特に、高齢者は、誤えん（嘔吐物が気管に入る）による肺炎を起こすことがあるため、体調の変化に注意しましょう。

嘔吐の症状がおさまったら、少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとるように心がけましょう。

＜ノロウイルスとロタウイルスの症状等＞

原因ｳｲﾙｽ	ノロウイルス	ロタウイルス
主な症状	● 下痢、嘔吐、吐気、腹痛などの症状があらわれます。 ● 発熱や脱水症状を起こすこともあります。	● 下痢、嘔吐、発熱などの症状が現れます。 ● 白色で水様の下痢便が特徴です。 ● 脱水症状を起こすこともあります。
感染経路	● 汚染された水や貝（主に二枚貝）を介した感染、発症が認められています。 ● また、吐物などによって生じたウイルスを含む水滴などを吸い込む飛まつ感染も推定されています。	● 糞口感染が主要ルートです。 ● 飛まつ感染も推定されています。
潜伏期間	１日～２日程度	１日～２日程度
症状が続く期間	１日～２日程度	３日～８日程度
流行時期	● １年を通して発生しますが、特に冬の時期に多くなっています。 ● ピーク時期は１２月頃です。	● 冬季（１月～５月頃）に乳幼児を中心に発生が多くなっています。 ● ピーク時期は２～３月頃です。
治療	● 特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法が中心です。 ● 乳幼児や高齢者等は重症化する場合があるので、早めに医療機関を受診することが重要です。 ● 下痢止めの使用は、医師に相談してからにしましょう。	

＜感染性胃腸炎に関する東京都の主な対策・情報提供＞

○ 東京都健康安全研究センターによる感染性胃腸炎に関する情報発信

「東京都感染症情報センター」のホームページにおいて、感染性胃腸炎の発生状況や発生時の対策についての情報提供を行っています。

◆「Ｗｅｂ版感染症発生動向調査」（毎週更新）
https://survey.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/epidinfo/epimenu.do

◆「感染症ひとくち情報」（みんなで防ぐ！感染性胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルスなど））
https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/assets/diseases/gastro/hitokuchi-joho.pdf?20261105

○ 流行シーズン開始時及び警報基準到達時における都民への注意喚起

都内における流行状況が警報基準に達した場合には報道発表を行っています。

○ 東京都のホームページにおける情報提供

施設でのノロウイルス等による感染性胃腸炎への対策や、食中毒に関する情報提供を行っています。

◆高齢者施設・障害者施設向け　感染症対策ガイドブック
https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/jigyosha/kansenshoguidebook

◆「社会福祉施設等におけるノロウイルス対応標準マニュアル」
https://www.hokeniryo1.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/noro/manual.html

○ 保健所における地域住民・施設等への助言・指導等の実施

地域において施設等の実態を踏まえた助言や指導等を行っています。

＜ノロウイルス等による食中毒の予防についての参考資料＞

食品衛生の窓（東京都の食品安全情報サイト）

○　食中毒予防ポスター・リーフレット等

◆「親子で学ぶ食中毒ずかん」



◆「家庭でできるノロウイルス対策」



【食中毒予防ポスター・リーフレット等リンク先】

https://www.hokeniryo1.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/pamphlet2/pamphlet.html